

# 兵庫県立粒子線医療センターの あり方検討委員会

2024.6.4

# 00 本委員会の設置趣旨・スケジュール（案）

## 本委員会の設置趣旨

- 粒子線医療センターは開設から20年以上が経過し、施設の老朽化が顕著となっていることに加え、近隣府県での粒子線治療施設の開設など取り巻く環境が大きく変化。
- 粒子線医療センターのみならず、コスト増等により県立病院全体でも厳しい経営状況。
- これらを踏まえ、「兵庫県立粒子線医療センターのあり方検討委員会」を設置し、専門的見地から施設の今後のあり方についてご提言を頂きたい。

## 検討スケジュール(案)

区分	日程(予定)	内容
第1回	本日(6/4)	・施設や患者、経営状況の現状及び施設開設後の環境変化のご説明 ・本委員会において検討すべき課題、論点の整理
第2回	8～9月	・第1回目の議論、整理した論点を踏まえた意見交換 ・あり方の方向性についての意見交換
第3回	10～11月	・委員会としての提言内容について意見交換

# 01 本日検討頂きたい内容

## 本日の 目的

粒子線医療センターの施設・患者・経営の現状や状況の変化を踏まえあり方の検討にあたって必要な課題や論点の整理を行う。

## 01

施設の概要についてご説明

## 02

以下4つの視点からセンターの現状をご報告

- ①施設の老朽化
- ②患者の状況
- ③経営環境
- ④県立病院全体の状況

## 03

粒子線医療センターのあり方を検討するために、本委員会での検討が必要な課題や論点の整理 -意見交換-

## 04

第2回あり方検討委員会について

# 1. 施設の概要

## 施設紹介動画(約6分)

動画

(リンク先)

[https://www.youtube.com/watch?v=pVjh\\_LG5x6U](https://www.youtube.com/watch?v=pVjh_LG5x6U)

【公式】切らないがん治療？粒子線治療の1日の流れ&施設紹介  
／兵庫県立粒子線医療センター（HIBMC）

# 01 施設の概要

## 1 現況

### 所在地

たつの市新宮町光都1丁目2番1号  
(アクセス)

・JR「相生」駅からバス35分 (1時間1~2本(8時台5本))

### 施設規模

#### ① 土地

敷地面積	58,822㎡(うち山林 3,328㎡)
------	----------------------

#### ② 建物

建築物	建築面積(㎡)	延床面積(㎡)	竣工
照射治療棟	7,180	11,831	H11.7
病院棟	4,213	4,679	H12.12
計	11,393	16,510	



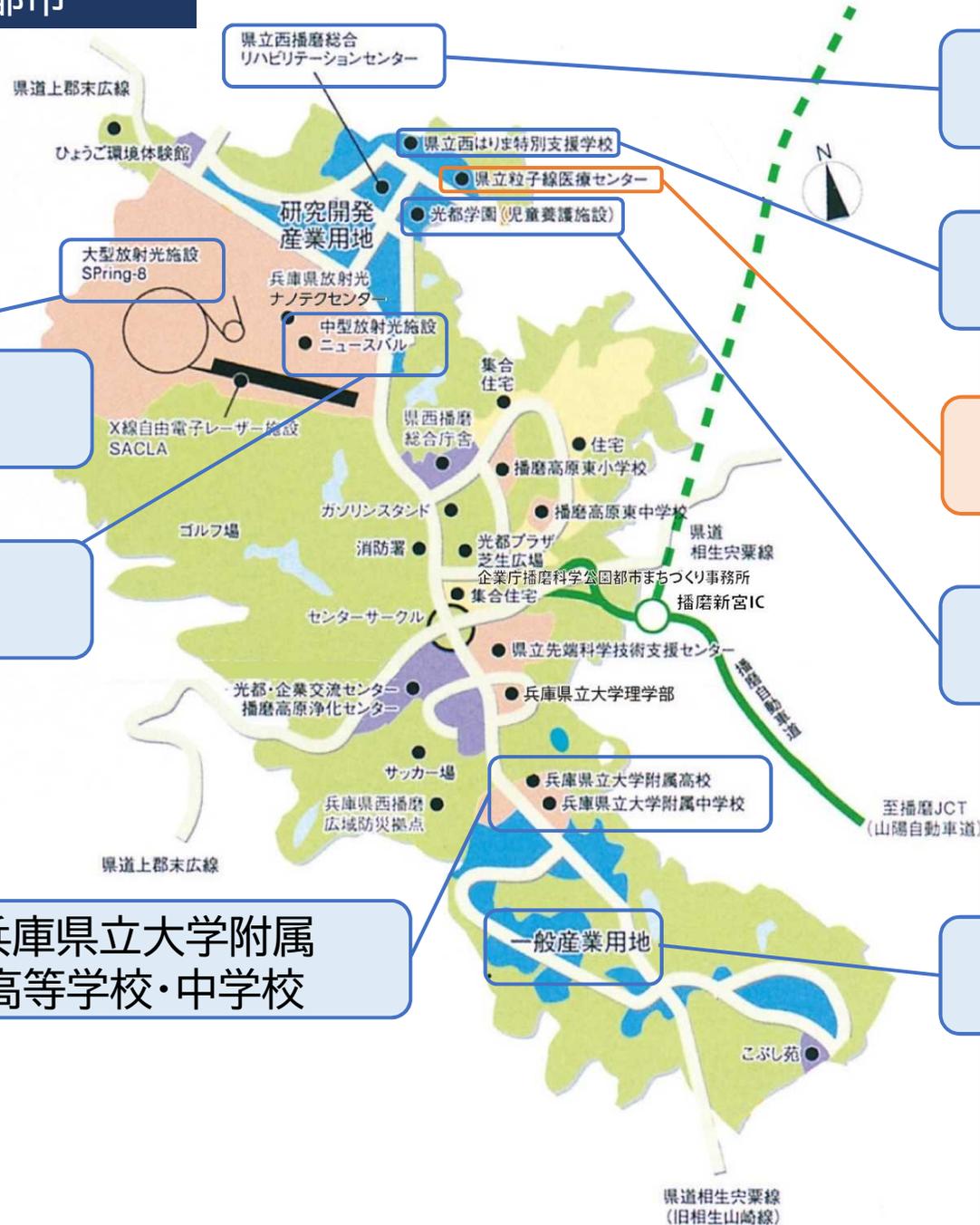
### 病床数

許可病床数 50床 (稼働病床数 50床)

4床室：9室  
個室：特床室:4室，1床室：10室

# 01 施設の概要 (播磨科学公園都市)

## 播磨科学公園都市



# 01 施設の概要

## 1 現況

### 設置経緯

- 「ひょうご対がん戦略」として、兵庫県のがん特性(肺がん,肝がん,子宮がんの死亡率が全国平均より高い)に効果的な粒子線治療施設を早期に設置することで県民の健康・福祉の向上を図る。
- 粒子線治療には、精度の高い診断が必要であり、SPring-8によるがん診断法の開発研究と、粒子線治療の連携を期待し、播磨科学公園都市に設置。

### 沿革

平成13年4月 1日	病院開設
平成15年4月 1日	陽子線の一般診療開始
平成16年8月 1日	陽子線の高度先進医療(現在は先進医療)適用
平成17年3月17日	重粒子線の一般診療開始
平成17年6月 1日	重粒子線の高度先進医療(現在は先進医療)適用
平成28年4月 1日	一部の適応症に対する保険適用(小児腫瘍など)
平成30年4月 1日	保険適用症例の拡大(前立腺がんなど)
令和 4年4月 1日	保険適用症例の拡大(肝細胞がんなど)
令和 6年6月 1日	保険適用症例の拡大(早期肺がんなど)

# 01 施設の概要

## 2 粒子線医療センターで行っている粒子線治療

- 全国自治体初の粒子線治療施設
- 陽子線及び重粒子線の2種類の粒子線治療が可能な[世界初・日本唯一の施設](#)

### 陽子線治療の特徴・メリット

- X線の1.1~1.2倍のがん細胞殺傷効果を有する。
- 回転ガントリーおよびブラッグピーク(高線量域)という特性から、X線治療と比較して非腫瘍領域への放射線障害を低減できる。
- X線を用いた放射線治療で培った知識と経験(安全で効果的な照射線量、分割回数および併用抗癌剤など)を利用できる。
- 上記の恩恵を最も受ける[小児がんが真っ先に保険適用](#)となった。  
※小児がんに対する重粒子線治療は保険適用および先進医療の適応はない。

### 重粒子線治療の特徴・メリット

- X線の約3倍のがん細胞殺傷効果を有する。
- ブラッグピークという特性から、X線治療と比較して非腫瘍領域への放射線障害を低減できる。
- 放射線の側方拡散が狭いので、[陽子線より放射線障害を低減できる](#)。従って陽子線より高線量の照射を行い治療成績が向上する可能性がある。
- 上記の恩恵を最も受ける[骨軟部悪性腫瘍が真っ先に保険適用](#)となった。

粒子線医療センターでは、それぞれの特徴やメリット、患者の病状などを、総合的に判断し、陽子線治療と重粒子線治療を使い分けている。

## 2. 施設の老朽化

## 1 施設の老朽化

- 開設から20年以上が経過し、施設が老朽化している。
- 治療に必要な部品の一部は既に製造中止している。

## 真空管の製造中止

粒子線の加速に必要な電圧を増幅するための真空管(アメリカ製)が2018年に製造中止となっており、現在は在庫をローテーションしながら使用している。

※最新の粒子線施設では、電子制御に置き換わっている。



## 建築物の老朽化

一般的に築20年を超えると

- ・外壁補修工事
- ・防水工事
- ・水廻り設備の更新 などが必要になってくることから、今後修繕費が増加すると考えられる。



# 03 粒子線医療センターの現状と課題について

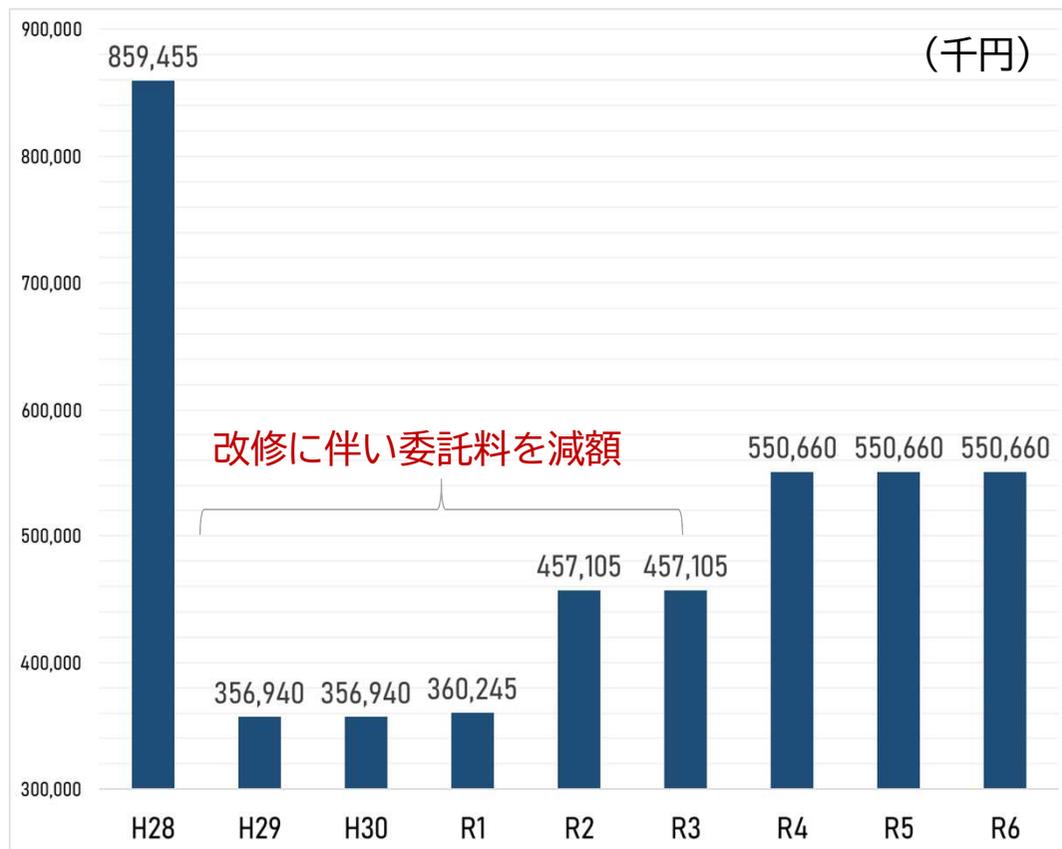
## 2 保守委託経費の現状

- 装置の故障頻発等を踏まえ、安定稼働を維持するため、**H30年度に大規模改修を実施。**
- 改修に伴い委託料の見直し・削減に努めたが、**現在も年間5億5千万円の経費が必要。**

### ●業務委託契約

区分	内容
契約期間	2018年度(平成30年度)～ 2027年度(令和9年度)
契約相手先	(株)日立製作所

### ●粒子線治療装置保守管理・維持運転委託料の推移



### H30大規模改修

平成13年に装置を設置してから**15年間の耐用年数が経過し故障も頻発**してきたことや、**将来的な委託料を削減するため**、改修後10年程度の使用を見据え平成30年5月～令和3年12月までの間、総額約34億円をかけ「**粒子線治療装置改修工事**」を実施。

➤既に複数箇所では老朽化が進んでおり、令和9年以降も治療継続を行う場合、大規模な改修等が必要となる。

## ● 粒子線治療装置関係

### 入射系

状況

真空管が販売終了となり、  
継続使用には半導体への更新が必要  
→約15ヶ月の治療停止期間が発生

### 加速器系

加速空洞(加速器の心臓部分)の技術者(外部)が数年以内に退職予定。退職後はトラブル発生時の復旧に時間を要する場合がある

### ガントリ治療室

X線画像システムの部品販売が終了し、継続使用には令和9年からの更新が必要

### 固定治療室

部品の予備がおおよそ令和13年分まで以降の継続使用には機器の更新が必要

### 治療計画装置

二次元照射用治療計画装置について、市販品で修理することができず、壊れた場合に備えて機器の更新が必要

## ● 建築・設備関係

### 高圧電源系統

状況

変圧器が劣化しており、今後、電力の安定供給に支障を来す恐れがある

### 空調系統

銅管を使用しているため漏水が多発発生した箇所にスポット的に対応しているが、SUS管への更新など根本的な対処が必要

### 温・冷却水系統

水の安定供給のためのポンプの更新時期を既に迎えている

### 照明系統

令和9年末には蛍光灯の製造が終了することから、治療の継続にはLED照明への更新が必要

### ガス系統

ボイラーの更新について、今後、検討が必要

### 建屋構造系統

壁に埋設した配管からの漏水が見られ、建屋内部からの崩壊が進む恐れがある

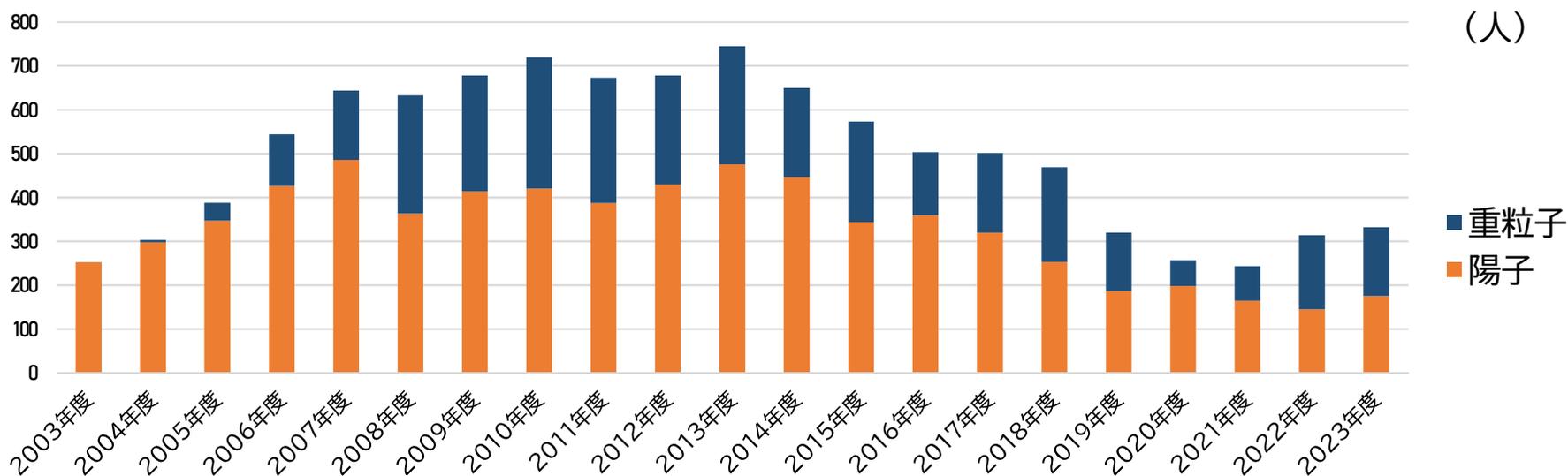
# 3.患者の状況

# 03 患者の状況

## 1. 粒子線医療センターの成果

- 総治療実績 **10,420名** (開院(H13.4)～2024年3月末までの実績)
- 陽子線・重粒子線の2種類の治療を20年以上続けてきたのは、全国で粒子線医療センターだけ。
- R4末時点で全国の粒子線治療患者総数の**12.3%**が粒子線医療センターによる治療

(人)	頭頸部	肺がん	肝がん	膵	前立腺	骨軟部	その他	総数
陽子	392	353	1,042	747	3,211	274	869	6,888
重粒子	855	556	927	40	0	373	781	3,532
合計	1,247	909	1,969	787	3,211	647	1,650	10,420

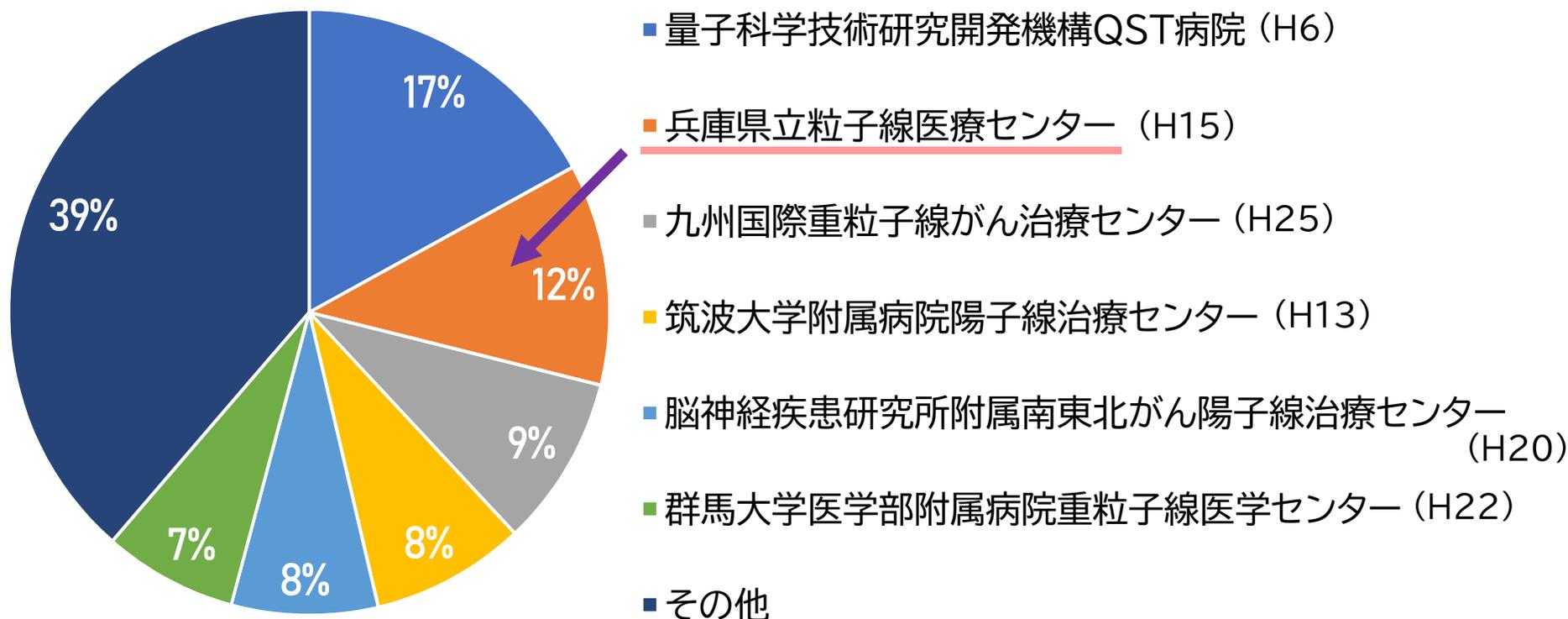


# 03 患者の状況

## 1. 粒子線医療センターの成果

- 総治療実績 **10,420名**(開院(H13.4)～2024年3月末までの実績)
- 陽子線・重粒子線の2種類の治療を20年以上続けてきたのは、全国で粒子線医療センターだけ。
- R4末時点で全国の粒子線治療患者総数の**12.3%**が粒子線医療センターによる治療

### ● 全国の粒子線施設における治療の登録患者数割合(H6～R4)



※(公財)医用原子力技術研究振興財団「2023年度版 各粒子線施設における治療の登録患者数(年度別)」を基に兵庫県作成  
※()内は治療開始年度

# 03 患者の状況

## 2 近隣施設の状況

➤ 施設の開設時点(H13.4)では西日本で唯一の施設であったが、**近年多数の粒子線治療施設が開設されている状況**

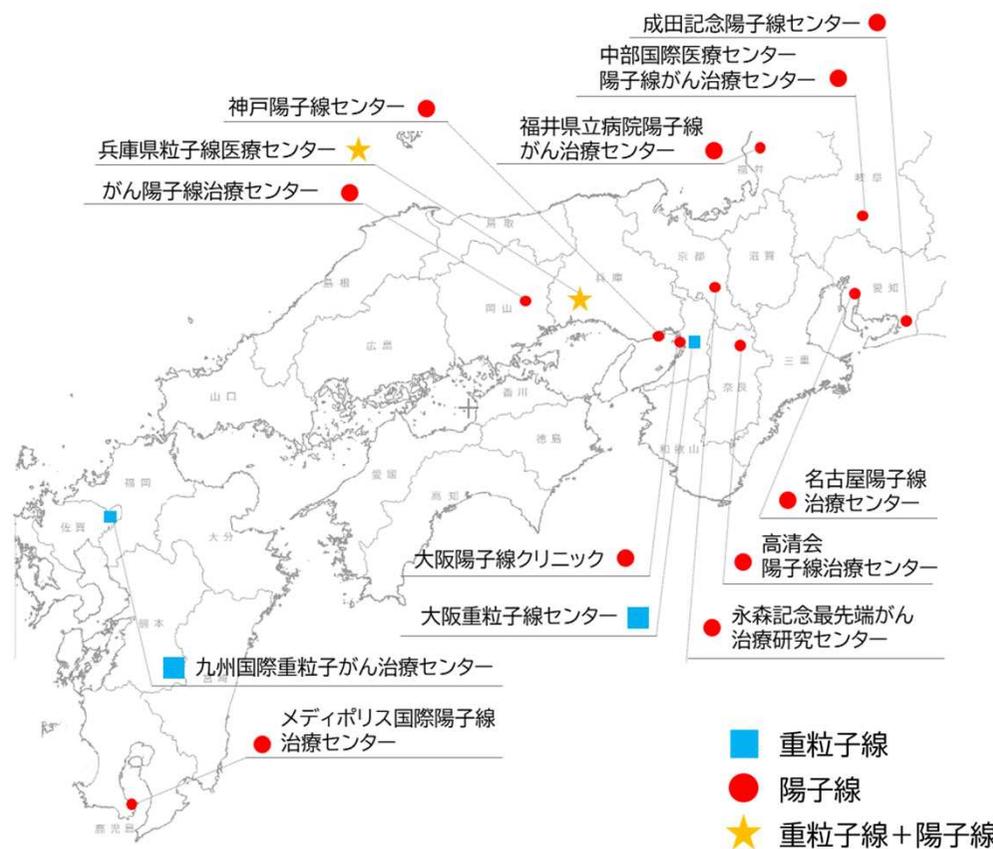
(粒子線がん治療施設全国26カ所 R6.4時点)

重粒子線:6カ所 陽子線:19カ所 重粒子と陽子線の両方:1カ所(兵庫県立粒子線医療C)

### ●他施設の開設状況

年月	所在地	施設名
H25.2	愛知県	名古屋陽子線治療センター
H25.8	佐賀県	九州国際重粒子がん治療センター
H28.4	岡山県	がん陽子線治療センター
H29.9	大阪府	大阪陽子線クリニック
H29.12	兵庫県	神戸陽子線センター
H30.9	愛知県	成田記念陽子線センター
H30.10	大阪府	大阪重粒子線センター
H30.10	奈良県	高清会陽子線治療センター
H31.4	京都府	永守記念最先端がん治療研究センター
R6.3	岐阜県	中部国際医療センター

※H24年度以降、中部地方以西の施設を抜粋



# 03 患者の状況

## 3 集患の状況－地域別

- 保険適用拡大で受療環境が整う一方、関西圏周辺の粒子線治療施設の新設により患者数が減少し、経営状況が悪化
  - 特に大阪重粒子線センター開設(H30)による大阪府周辺の患者減少の影響は大きく、患者数の回復が難しい。(最盛期(H25)の1/2以下の集患状況)
- 集患の約半数が県内からとなっている。

### ● 粒子線医療センター集患推移

(参考)神戸陽子線センター集患推移  
(H29開院)

区分 (人)	H25 九州国際 開院	H30 大阪重粒子 開院	R1	R4	R5		R5		
					重	陽	重	陽	
県内	226	165	158	160	71	89	184	78	106
大阪	172	84	23	15	98	56	9	79	69
その他近畿	83	66	17	14			12		
中国	96	59	57	74			74		
四国	42	48	35	38			36		
九州	65	8	6	1			4		
中部	42	25	14	8			7		
その他国内	15	6	3	3			4		
海外	4	8	7	1			2		
全体	745	469	320	314			169		

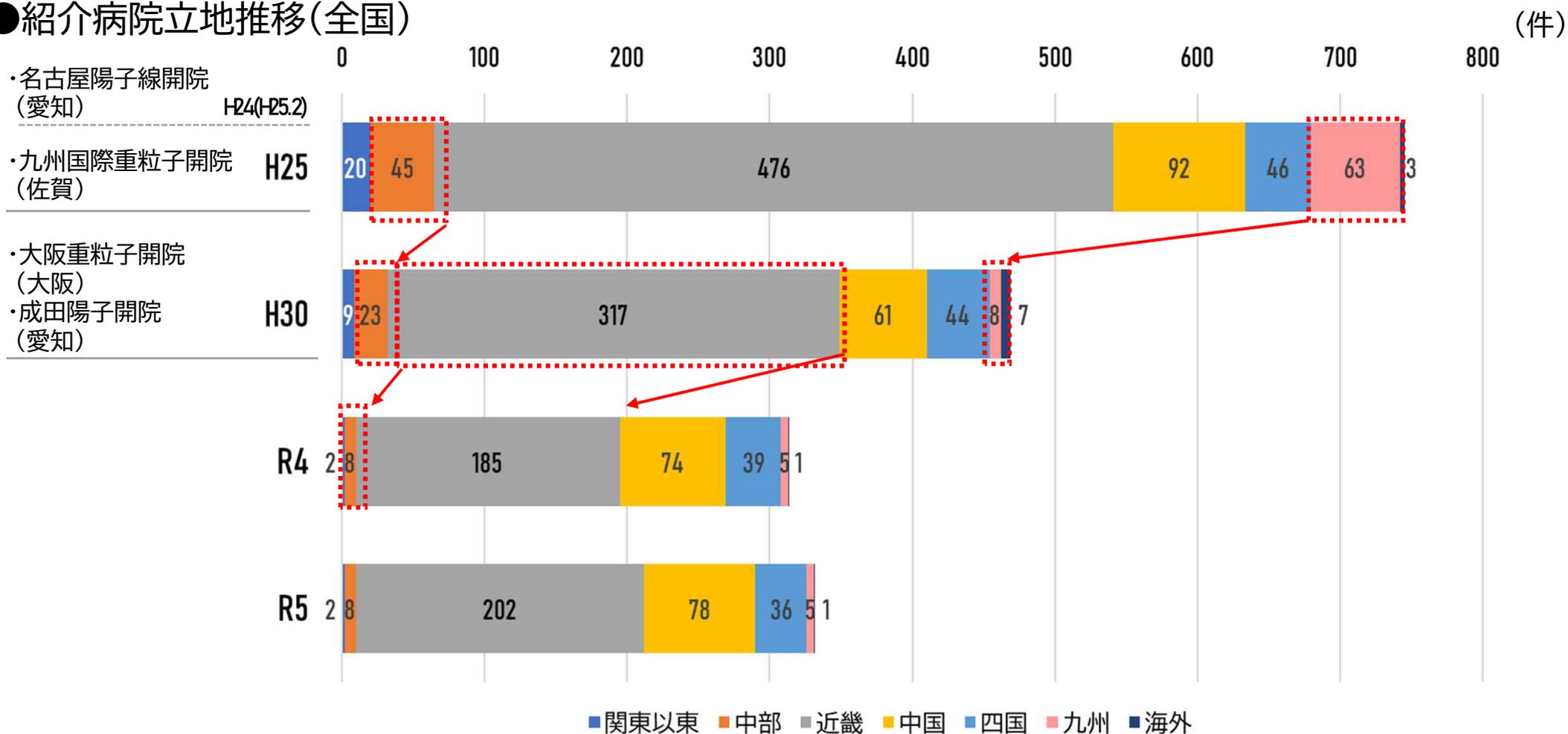
区分 (人)	H30	R5
県内	86	189
大阪	27	23
その他近畿	6	7
中国	0	11
四国	10	13
九州	1	9
中部	1	1
その他国内	2	5
海外	0	3
全体	133	261

# 03 患者の状況

## 2 集患の状況—他病院からの紹介

➤九州国際重粒子がん治療センターの開院に伴い九州エリア、大阪重粒子線センター、名古屋陽子線治療センター、成田記念陽子センターの開院に伴い中部・近畿エリアからの集患が大幅に減少している。

### ●紹介病院立地推移(全国)



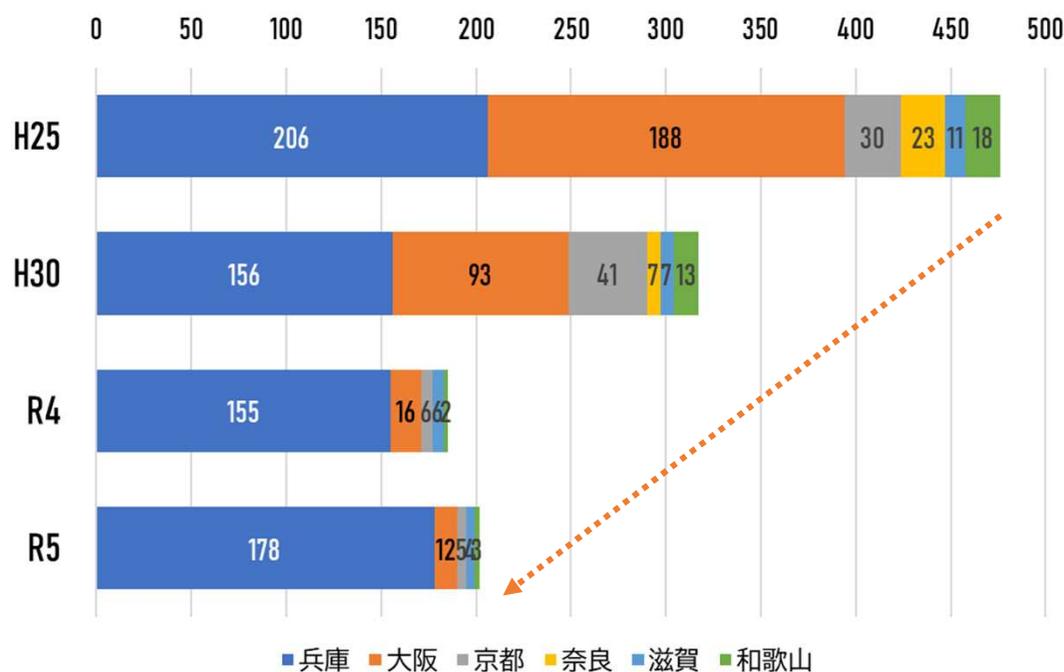
# 03 患者の状況

## 2 集患の状況—他病院からの紹介（近畿圏内）

➤大阪及び他近畿圏の病院からの紹介が大幅に減少している。

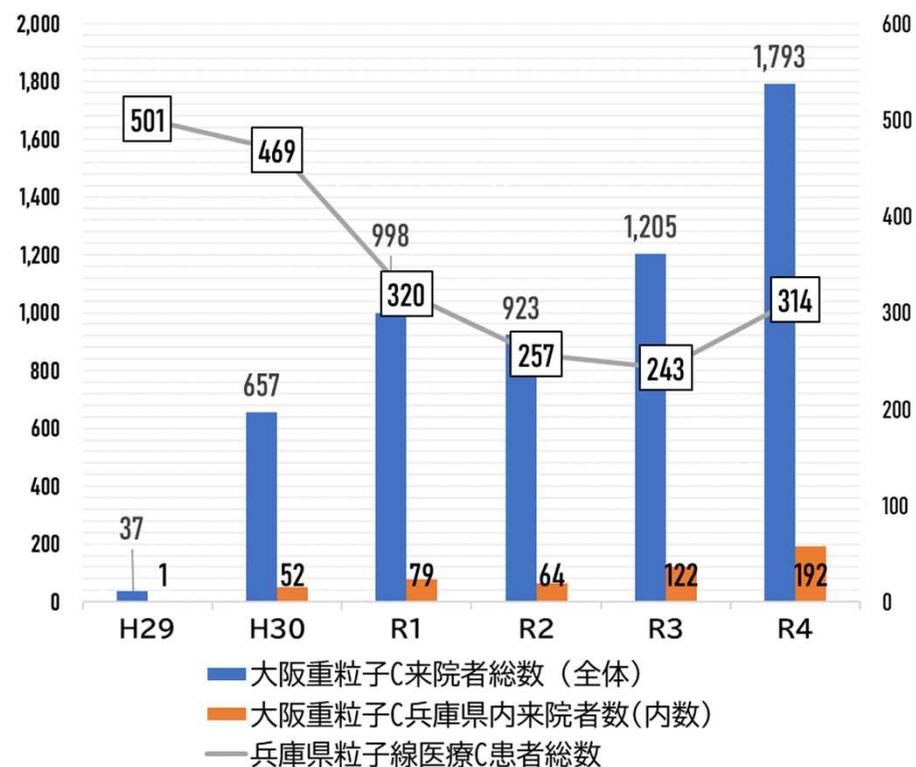
●紹介病院立地推移(近畿圏)

(件)



●大阪重粒子C 地域別来院者状況(R4)

(人)



●大阪重粒子線C 地域別来院者状況(H30.3~R5.3)

	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	京都府	滋賀県	愛知県	三重県	愛媛県	その他県	合計
紹介件数累計	3,830	510	295	199	186	154	105	67	29	238	5,613
割合	68%	9%	5%	4%	3%	3%	2%	1%	1%	4%	100%

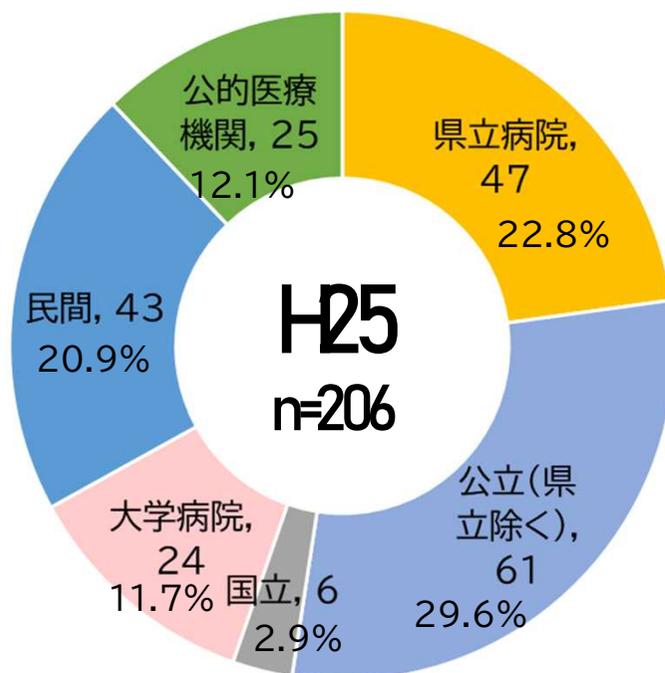
※大阪重粒子Cは(公財)大阪国際がん治療財団決算報告数値を基に兵庫県作成。来院者状況には新患紹介後に診察がキャンセルとなった数も含む。

# 03 患者の状況

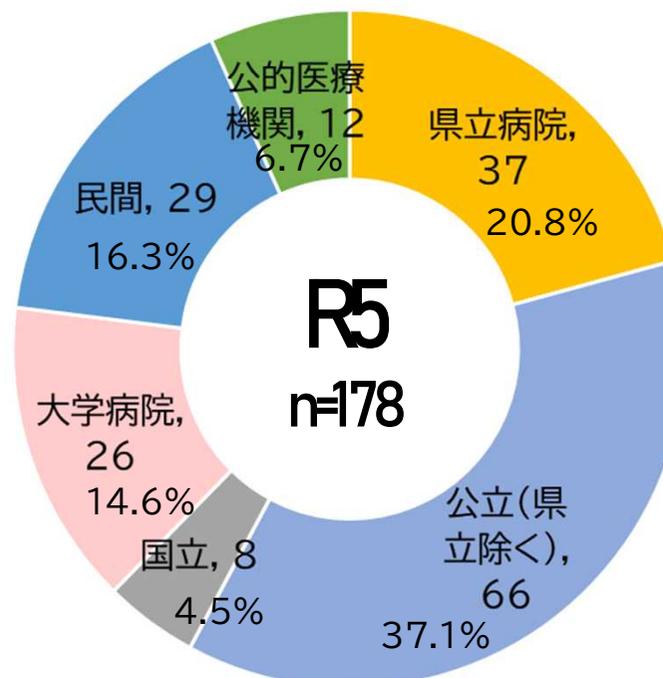
## 2 集患の状況—他病院からの紹介（兵庫県内）

- 兵庫県内に立地する病院の区分を見ると、H25から大きく構成は変わっていない。
- 県立病院では、がんセンター、尼崎、西宮からの紹介が減少しているが、R4に開院した、はりま姫路から多くの患者が紹介されている。

### ●紹介病院種別内訳(兵庫県内) (件)



県立病院	件数
がんセンター	30
尼崎	8
加古川	4
西宮	4
淡路	1



県立病院	件数
がんセンター	15
はりま姫路	14
加古川	4
丹波	2
淡路	2

# 03 患者の状況

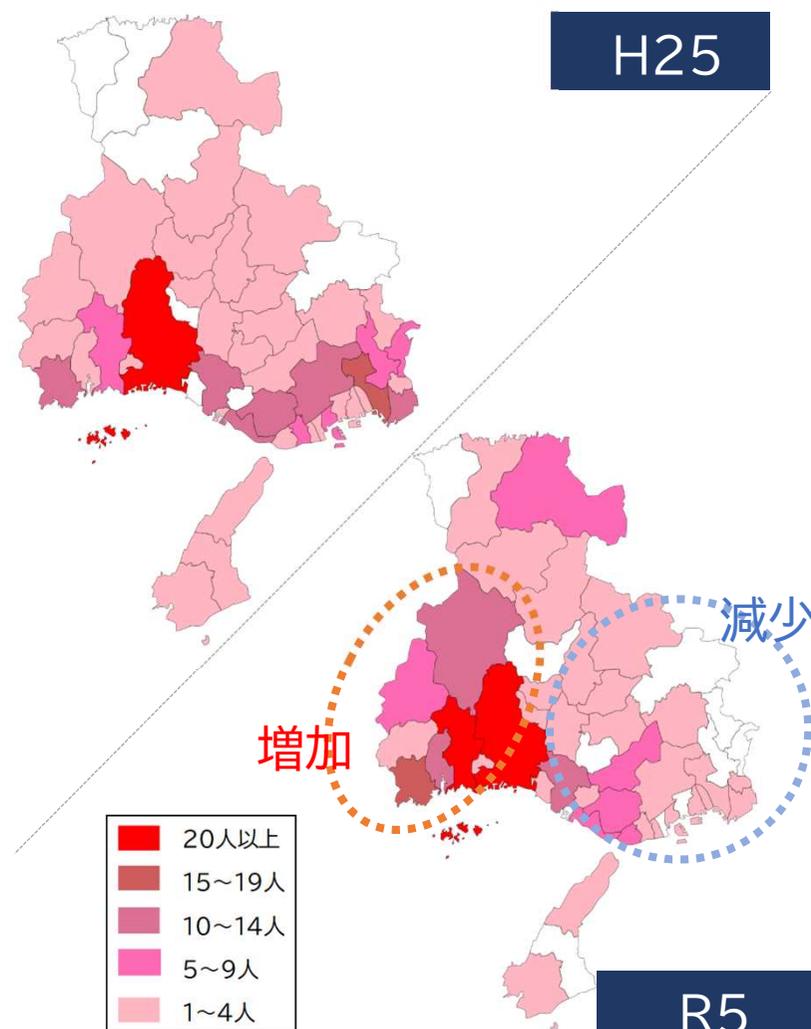
## 3 集患の状況—地域別

- 神戸・阪神南エリアからの集患が大幅に減少しており、大阪重粒子線センター開設に伴う影響とみられる。
- 一方、西播磨地域からの集患は増加しており、西播磨地域に注力した広報発信や医療機関との連携強化などの成果が現れている。

### ●粒子線医療センター—兵庫県内集患推移

エリア	H25 九州国際開院		H30 大阪重粒子開院		R4		R5	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
神戸	57	25%	27	16%	25	16%	23	13%
阪神南	33	15%	10	6%	1	1%	4	2%
阪神北	20	9%	15	9%	8	5%	5	3%
東播磨	26	12%	26	16%	19	12%	27	15%
北播磨	11	5%	16	10%	17	11%	14	8%
中播磨	33	15%	27	16%	35	22%	30	16%
西播磨	30	13%	34	21%	41	26%	64	35%
但馬	5	2%	6	4%	3	2%	9	5%
丹波	4	2%	4	2%	3	2%	2	1%
淡路	7	3%	0	0%	8	5%	6	3%
総計	226	100%	165	100%	160	100%	184	100%

※各年度上位5位までを着色



# 03 患者の状況

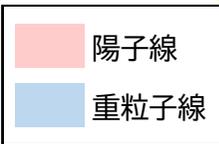
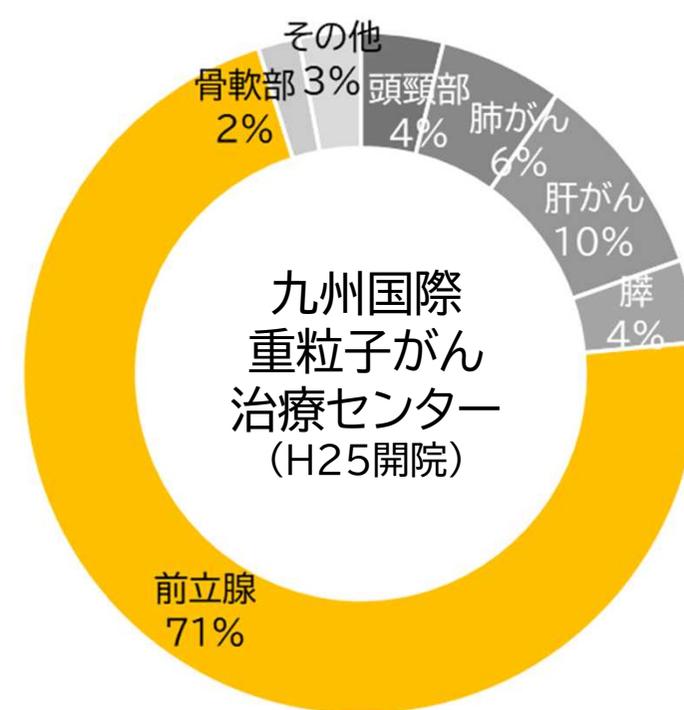
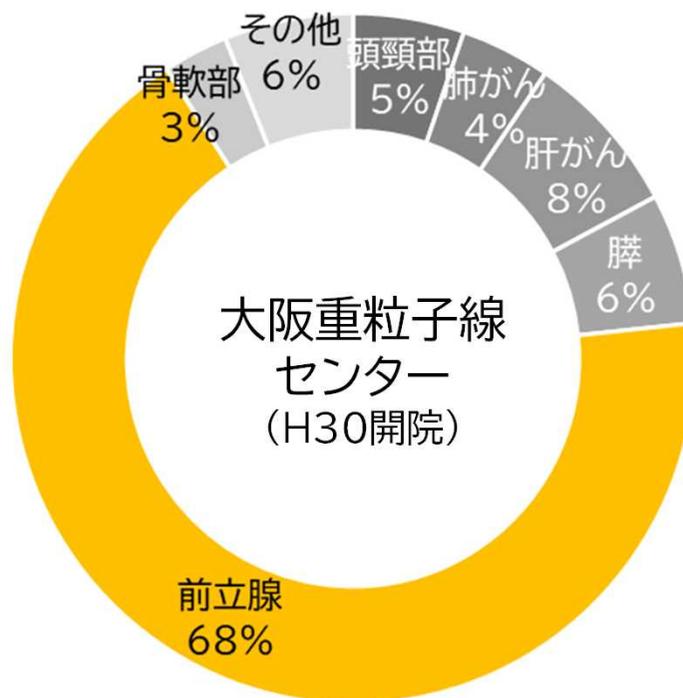
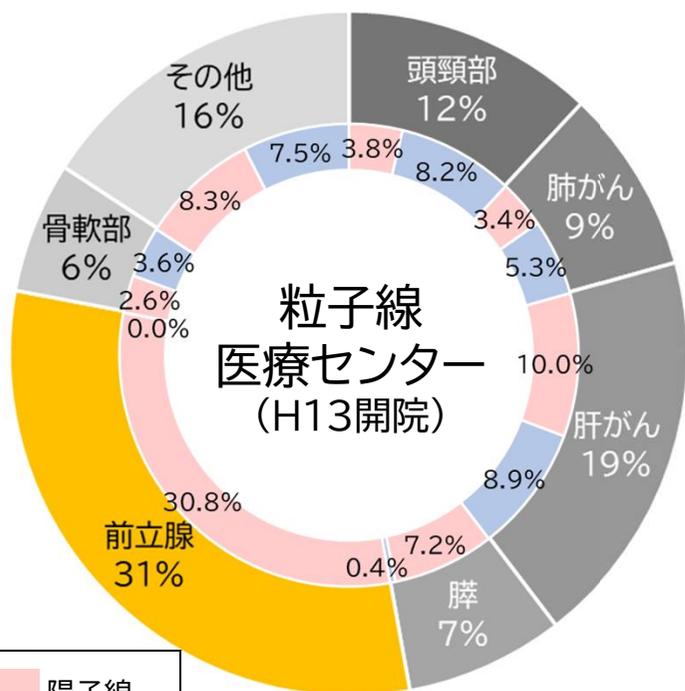
## 3 集患の状況—治療部位別

➤ 他施設と比較し、全体に占める前立腺がんの割合が低い傾向にある。  
 → 粒子線治療を受ける患者数が最も多い前立腺がん患者の来院が少ない。

### ● 治療部位内訳比較

保険適用症例 (前立腺がんを除く)
2,375,000円

限局性及び局所進行性 前立腺がん
1,600,000円



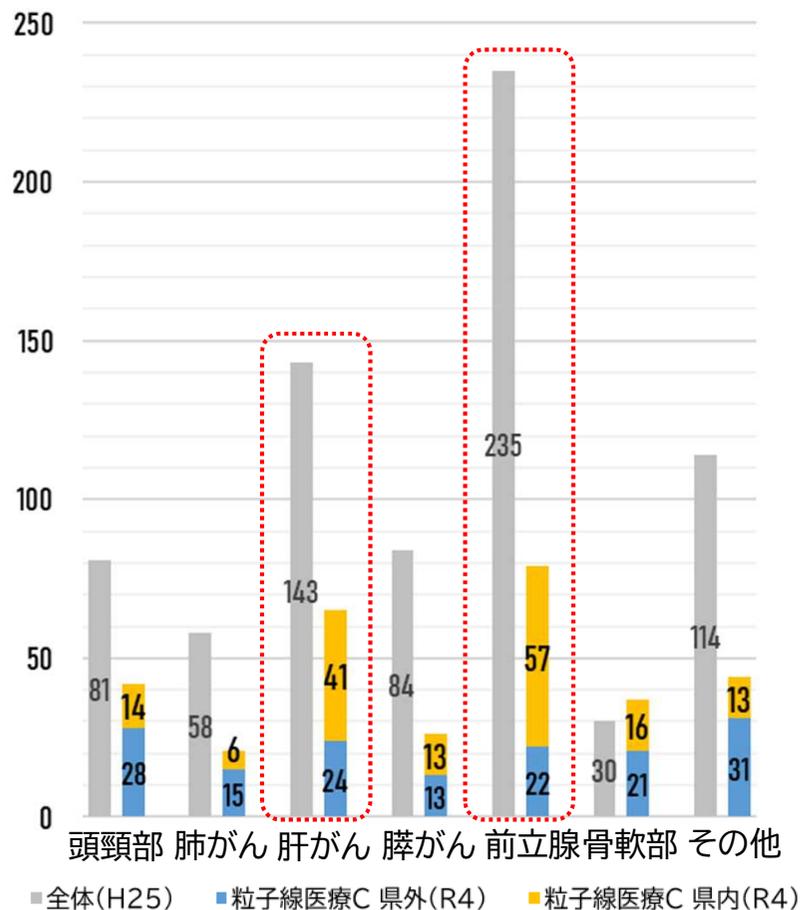
※大阪重粒子線Cは(公財)大阪国際がん治療財団決算報告数値から兵庫県作成,九州国際重粒子CはHP記載数値(集計期間)・粒子線医療センター:H15~R6.3月末・大阪重粒子C:H30~R5.3月末・九州国際重粒子C:H25~R6.4月末

# 03 患者の状況

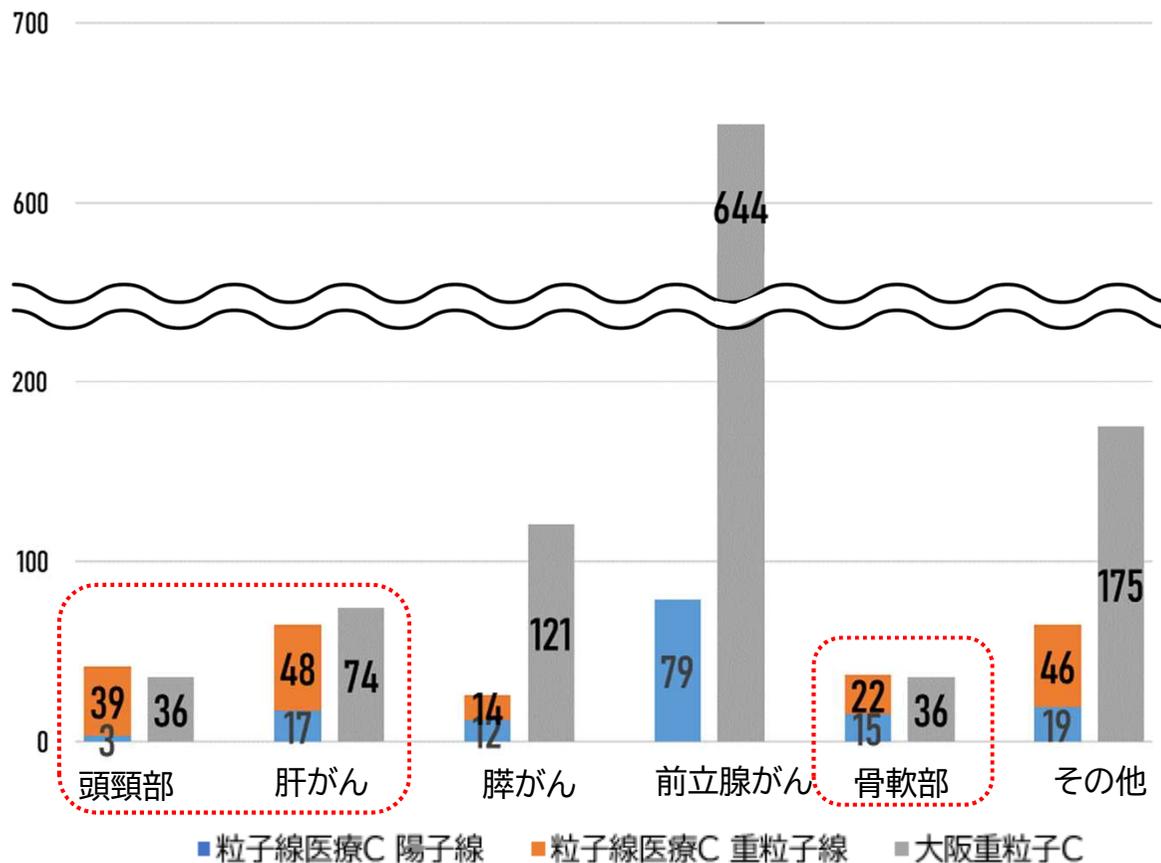
## 3 集患の状況－治療部位別

- 前立腺がん、肝臓がんは県内からの集患率が高い。
- 頭頸部、肝がん、骨軟部は他の施設と比較し、治療実績が多い。

● 粒子線医療C治療部位別状況 (H25⇔R4比較) (人)



● 粒子線医療C治療部位別状況比較(R4実績) (人)



※大阪重粒子線Cは(公財)大阪国際がん治療財団決算報告「治療実施結果」から作成

# 4. 経営環境

# 04 経営環境

## 1 保険収載の状況

- 保険適用には治療エビデンスの集積が必要不可欠であり、**粒子線医療センターは全国で4番目に開設した歴史と豊富な実績**をもとに、国及び主要団体に対しエビデンス報告を含めた積極的な働きかけを行い、**適用拡大に大きく貢献**した。
- 一方保険適用が進むことで1人あたりの収益が減少している。

先進医療の場合:治療料のみ  
2,883千円

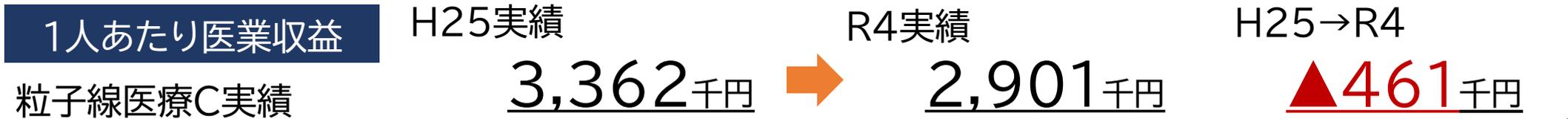
### ●陽子線治療

適用年度	症例	診療報酬額 ※1(千円)
H28	小児腫瘍	2,375
H30	限局性骨軟部腫瘍	2,375
	頭頸部悪性腫瘍	
	限局性及び局所進行性前立腺がん	1,600
R4	肝細胞がん	2,375
	肝内胆管がん	
	局所進行性膵がん	
	手術後に局所再発した大腸がん	
R6	早期肺がん	2,375

※症例により細かな適用条件(直径〇cm以上、〇〇を除く等)はありますが、この表では省略しています。

### ●重粒子線治療

適用年度	症例	診療報酬額 ※1(千円)
H28	限局性骨軟部腫瘍	2,375
H30	頭頸部悪性腫瘍	2,375
	限局性及び局所進行性前立腺がん	1,600
R4	肝細胞がん	2,375
	肝内胆管がん	
	局所進行性膵がん	
	手術後に局所再発した大腸がん	
R6	局所進行性子宮頸部腺がん	2,375
	早期肺がん	
	大型の局所進行性子宮頸部扁平上皮がん	
	婦人科領域悪性黒色腫	



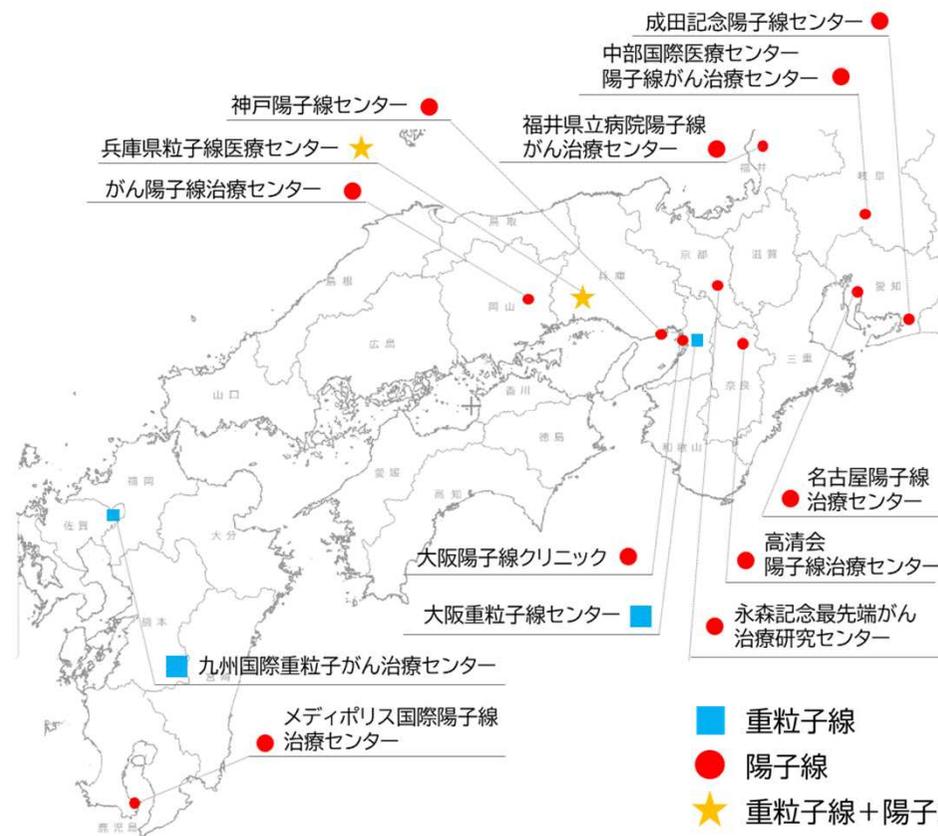
# 04 経営環境

## 2 近隣施設の状況 (再掲)

- 施設の開設時点(H13.4)では西日本で唯一の施設であったが、近年多数の粒子線治療施設が開設されている状況
- 保険適用拡大で受療環境が整う一方、関西圏周辺の粒子線治療施設の新設により患者数が減少し、経営状況が悪化
  - 特に大阪重粒子線センター開設(H30)による大阪府周辺の患者減少の影響は大きく、患者数の回復が難しい。

### ●他施設の開設状況

年月	所在地	施設名
H25.2	愛知県	名古屋陽子線治療センター
H25. 8	佐賀県	九州国際重粒子がん治療センター
H28. 4	岡山県	がん陽子線治療センター
H29. 9	大阪府	大阪陽子線クリニック
H29.12	兵庫県	神戸陽子線センター
H30. 9	愛知県	成田記念陽子線センター
H30.10	大阪府	大阪重粒子線センター
H30.10	奈良県	高清会陽子線治療センター
H31. 4	京都府	永守記念最先端がん治療研究センター
R6.3	岐阜県	中部国際医療センター



※H24年度以降、中部地方以西の施設を抜粋

## 3 他の粒子線治療施設との比較

➤通院治療できることが粒子線治療のメリットであるが、他施設と比較し[アクセス性が悪い](#)。

(令和4年度)	粒子線医療C	神戸陽子	大阪重粒子線C	九州国際重粒子C
治療法	重粒子・陽子	陽子	重粒子	重粒子
特徴	入院可能	県立こども病院に隣接	大阪の中心部に立地 周辺に医療機関が集積	九州・中国エリアで 唯一重粒子線治療 が行える
アクセス	新幹線・相生駅から 車で20分	ポートライナー・南 公園駅から徒歩5分	大阪メトロ・谷町四 丁目駅から徒歩8分	新幹線・新鳥栖駅前
施設・設備の所有形態	所有	所有	賃貸	所有
病床	50床	なし	なし	なし
患者数	314人	247人	1,086人	1,215人
職員数	66人	31人	58人	66人
うち医師	7人	6人	9人	7人
うち看護師	23人	5人	10人	12人
うち放射線技師	14人	8人	15人	18人

※大阪重粒子Cは(公財)大阪国際がん治療財団決算報告数値,九州国際重粒子Cは(公財)佐賀国際重粒子線がん治療財団決算報告数値を基に兵庫県作成

# 04 経営環境

## 3 他の粒子線治療施設との経営状況の比較

- 施設の経年化により、**修繕費・保守費が他施設よりも高額**となっている。
- 前立腺がんの割合が低く、入院施設もあることから1人あたり医業収益は高い。
- 他施設は新聞広告などの広報にも力を入れており、広範囲から集患している。

(令和4年度) 千円	粒子線医療C		神戸陽子		大阪重粒子線C		九州国際重粒子C	
経常収益	1,785,721		911,499		2,361,630		2,924,130	
医業収益	911,168	(51.0%)	573,945	(63.0%)	2,267,510	(96.0%)	2,395,236	(81.9%)
※1人あたり医業収益	2,901		2,323		2,087		1,971	
寄付金	0		0		94,061	(4.0%)	319,763	(10.9%)
補助金・交付金・繰入金	484,916	(27.2%)	55,163	(6.1%)	0		199,164	(6.8%)
経常費用	2,740,883		1,405,017		2,320,424		2,415,678	
うち給与費	625,053	(22.8%)	316,964	(11.6%)	374,210	(13.7%)	548,757	(20.0%)
うち材料費	58,749	(2.1%)	13,443	(0.5%)	35,157	(1.3%)	73,686	(2.7%)
うち経費・研究研修費	1,160,194	(42.3%)	414,267	(15.1%)	1,787,496	(65.2%)	1,031,112	(37.6%)
<b>広報費</b>	3,400	(0.1%)	4,230	(0.2%)	28,491	(1.0%)	28,064	(1.0%)
<b>修繕費・保守費</b>	697,013	(25.4%)	279,010	(10.2%)	40,059	(1.5%)	564,682	(20.6%)
<b>賃借料</b>	11,694	(0.4%)	2,885	(0.1%)	1,341,451	(48.9%)	7,849	(0.3%)
うち減価償却費	515,773	(18.8%)	518,716	(18.9%)	112,819	(4.1%)	751,316	(27.4%)
経常利益・損益	▲955,161		▲493,518		41,205		508,451	

※大阪重粒子Cは(公財)大阪国際がん治療財団決算報告数値,九州国際重粒子Cは(公財)佐賀国際重粒子線がん治療財団決算報告数値を基に兵庫県作成

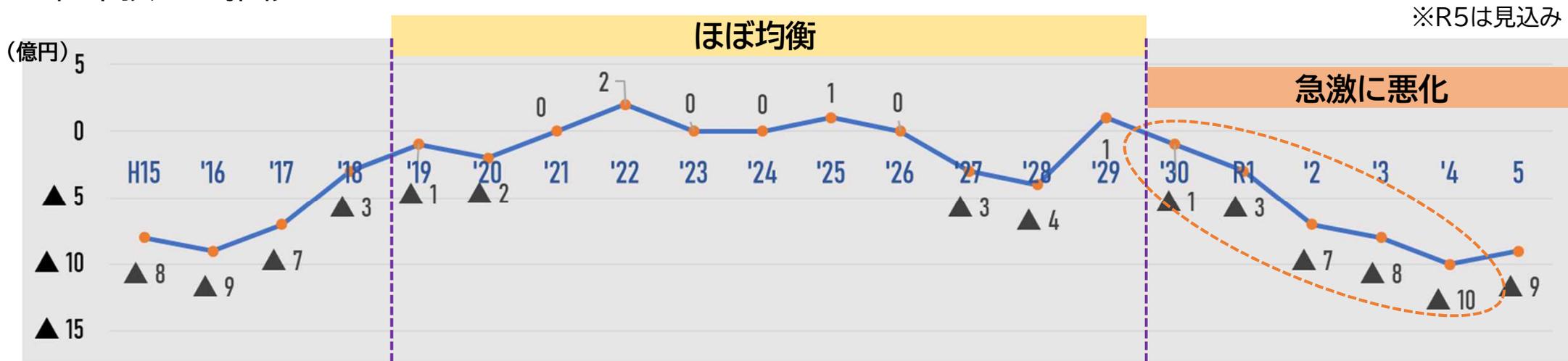
※%は/経常収益もしくは/経常費用

# 04 経営環境

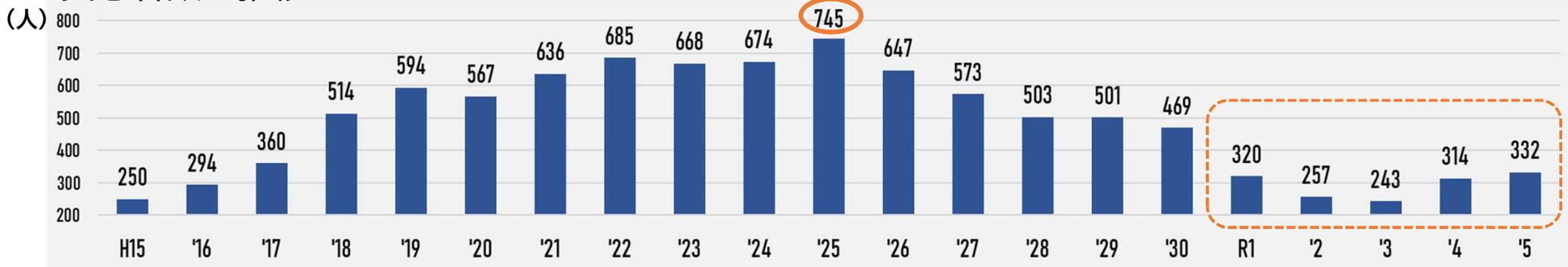
## 4 経常損益、患者の推移

- 以上の経営環境の変化からH30年度以降、収支が急激に悪化している。
- 集患については、コロナ前の水準まで回復したものの、**H25ピーク時の4割程度**に留まっている。

### ● 経常損益の推移



### ● 実患者数の推移



## 04 経営環境

### 5 施設の稼働状況

➤R5年度の施設稼働の状況を見ると、入院患者数は目標値を下回ったが、外来患者数は、目標値を達成した。

#### ●粒子線医療センター

	目標値	R5実績値
使用照射室数	4室	4室
1日あたり照射人数	—	32人
病床利用率	50.8%	47.0%
1日あたり入院患者数	25人	23人
1日あたり外来患者数	17人	19人

#### (参考)神戸陽子線センター

	目標値	R5実績値
使用照射室数	2室	2室
1日あたり照射人数	—	26人
1日あたり外来患者数	43人	40人

# 04 経営環境

## 6 支出経費の状況

- 物価の高騰等により経常費用は増加傾向にある。
- 今後も物価は上昇傾向にあるとみられ、令和5年度の経費ベースで収支均衡を図るためには、単純計算で最低年643人の集患が必要となる。(R5実績+311人)

### ●経常費用の内訳

(千円)	令和元年度	令和4年度	増減
給与費	613,338	625,053	11,715
材料費	84,696	58,749	▲25,948
経費・研究研修費	861,158	1,160,194	299,036
うち光熱水費	228,210	278,406	50,196
うち保守・修繕費	460,490	697,013	236,523
その他	740,431	896,887	156,457
合計	2,299,623	2,740,883	441,260
(参考)年間患者数	320人	314人	▲6人

※医業外収益(874,553千円)

R4年度年間経費－医業外収益

1,866,330千円

÷

R4年度患者1人あたり収益

2,901千円



R4年度経費ベースで

年間643人の  
集患が必要

## 7 経営改善に向けた取り組み

- 経営改善に向け以下の取組を進めているが、抜本的な経営改善には至っていない。
- 赤字解消のためには、さらなる経営改善の取組が必要。



### ① 前立腺がん患者の入院治療の受入れ開始

- ・令和5年7月から受け入れ開始
- ・前立腺がん患者治療件数が対前年度比1.4倍(79→114件)



### ② 積極PR戦略による増患

- ・従来のニュースレター等に加え、雑誌掲載やm3.com上での情報発信、「たつの市民まつり」への出展、がん治療に悩みを抱えている患者・家族等に対して訴求するポスター・チラシを商業施設、高速道路等へ掲示



### ③ 放射線管理保守費用の削減

- ・粒子線治療装置のフラットベース運転による電力使用量の削減、モニタリング対象の見直しによる保守費用の削減

# 5. 県立病院全体の状況

# 05 県立病院全体の状況

## 1 検討委員会設置に至った経緯 - 県立病院の経営状況・見通し

- 物価高騰によるコスト増等により収支が急激に悪化しており、赤字基調からの脱却が見通せない状況
- 医療需要の変化により、固定費を吸収できる医業収益の確保が見通せず、費用抑制の観点から抜本的な改革が必要
- 経常収支の赤字基調に加え、資本的収支の不足額が増加傾向にあり、内部留保資金がマイナスに転じるリスクに直面

### ●稼働率・収支の推移(R5以降は見込み)

単位(床,%,億円)

区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
稼働病床数	3,426	3,480	3,492	3,492	3,830	3,934	3,934	3,934	4,086	4,086	4,086
病床稼働率	82.4	81.4	67.6	68.6	74.8	78.4	83.2	83.2	83.3	85.0	85.5
経常収益	1,308	1,333	1,411	1,471	1,592	1,610	1,698	1,708	1,731	1,788	1,806
経常費用	1,312	1,365	1,403	1,443	1,622	1,708	1,746	1,774	1,805	1,876	1,891
経常損益	△4	△31	7	28	△30	△98	△48	△66	△74	△88	△85
純損益	0	△40	△55	32	△85	△103	△62	△83	△124	△89	△85
内部留保資金残高	40	34	56	106	103	40	2	△36	△98	△108	△168

### ●収益・費用の見通し

#### [収益]

R6には稼働率が概ねコロナ前まで回復する見込みであるが、コロナ後の受療行動の変化もあり、**更なる稼働率向上による収支改善が難しい状況**

#### [費用]

R1を基準として比較すると、給与費は医業収益の増加率の範囲内に収まっているが、**材料費・経費は医業収益の増加率を上回っており、コスト圧力が高まっている状況**



# 05 県立病院全体の状況

## 2 検討委員会設置に至った経緯 – 第5次病院構造推進方策への位置づけ

➤ 病院事業全体の状況及び粒子線医療センターの経営状況から、第5次病院構造推進方策内で外部有識者を含む検討会を早期に立ち上げる旨を記載

### III 取組方策

31

#### 3 収支構造の最適化 (1) 抜本的な経営改革に係る取組

経ガ：3(6)③

##### 取組方策（基本方向及び取組内容）

～(略)

##### 取組内容

- 推進方策期間中の経常黒字化が困難と見込まれる病院の抜本的な経営改善方策を検討・実施する。
- 特に粒子線医療センターは、外部有識者含む検討会を早期に立上げ、経常赤字の解消に向けた今後のあり方を検討し、具体策に着手する。

**粒子線医療センターのあり方検討委員会設置へ**